

地域のための景観マネジメント研究 WS 第2回ミーティング：2008.11.1(和歌山大学)
議事録

司会者名(所属): 田中 尚人 (熊本大学)

■これまでの活動経緯の説明

田中（熊本大学）：本ワークショップのこれまでの活動経緯として9月24日に行われた第1回勉強会の討議内容（パネリスト羽藤先生，松島先生）について報告があった。

■評価手法と景観

鈴木（北海学園大学）：「管理」でなく「地域をよくすること」というイメージを共有することの大事さ、また今後どのように実践していけば良いかをこの研究会で議論したい。合意形成に特化した研究をやってきたが、景観評価に活用できる可能性を感じる。モエレ沼公園を事例にどのぐらい前から景観などを考えていたのかを検討しているところである。

福井（国総研）：景観や手法に不信があったが、もうそのようなことではいけない時代にある。手法を使うと何かが出る。その有用性について考えなければならない。

■「地域」のスケール

樋口（九州大学）：地域のスケールはどのくらいを想定しているのか？

田中：景域や自治体レベルだろうか，まだ議論が熟していない．確かに規模を考えないといけない時代にある．

樋口：都市圏という規模が設定されることがあるが、実態は機能していない。ある地域を圏域と捉えてビジョンを見せることが日本では抜けている。アメリカでは州をまたがり、人や物が移動する範囲を圏域と捉えていて、成果をあげている。「地域マネジメント」となると「環境マネジメント」の結果として景観が出てくるのではないか。NPO 組織を作るときに入れておかなければならない専門家として環境は未だ弱い。今後の展開としてフレームづくりが大切である。地域マネジメントで考えるとき、「環境」という捉え方は良い攻め口である。

柴田（福岡大学）：計画の人と、景観の人との違いがある。景観は、説明変数になり得るか、否か？
今回あった研究について、「再開発というものをどうよくしていくのか？」という大きな問題がある。その一部としての景観。

その時に、データ化できる部分だけを、取り出そうとしているのではないか？手段にウェイトが高くなると、不信感がでてる。

○来年の十木計画学春大会でのセッションについて

田中：12月4日に行われる第2回研究会について紹介。景観だけではなく計画の人に参加して欲しい。春大会にセッションを立ち上げるので、なにかアイデアは？

■地域のビジョン

出村：最終目的として「再開発」というのには違和感がある。景観は再開発の上に「ビジョン」が必要である。

福井：景観デザイン委員会の中で政策提言を行おうという動きがある。国交省ではなく景観行政団

議事録

体を対象に、地域戦略とならなければならない。

樋口：為政者が飛びつくような、ビジョンの見せ方を考えなければならない。ビジョン作りは景観屋だけでは無理。プロジェクトを立ち上げて社会実験をやるのが有効では？

田中：リアリティのある都市計画になるためにビジョンを描けるか？

柴田：そもそも、景観は都市計画と連動するべきだと、中村良夫氏が言われている。今後の研究としては、景観計画をたてるプロセスに、誰（どういう専門家）が、どのように関係しているかを調べたら面白いと思う。景観計画の実態のセッションなど。

樋口：50年100年というスパンで考えないといけない。そのためにはNPO、NGOという考え方が必要であるが、日本にはない。

辻（宮崎大学）：景観デザインをどうよくしていくか、地域の景観を、どうよくしていくのかといった、地域にとって二つの流れがあると思う。

■ソーシャルキャピタル

田中：ソーシャルキャピタルというものについてどう考えるか？

柴田：最終的にできるものがよくなるだろう、という予想のもとに、行われるべきである。そのプロセスで地域力があがるのが、ソーシャルキャピタル向上に繋がり、成果があがる。ここまで、いかないと意味がないのではないか？

樋口：コンパクトシティや景観計画など、一つの話として展開できることが大事だが、今は政治家しかできていない。NPOはそもそも伝道師として、かつ上記役割を担っていないといけない。時間軸をしっかりと設定することが不可欠である。

岡田（近畿大学）：人がどう景観を評価してきたのかに興味がある。個人が自主的に価値を決めていく。これはポピュリズム（トップダウンではない）。市民の景観の価値と専門家の価値がこんなに違うのはなぜか？京都タワーについて調べているとあのタワーはもともと灯台を意図していた。東本願寺のロウソクだと言って喜んでいる人がいる。山田守さんの意図と事後的な市民の評価が乖離していることに興味を感じている。そういう意味では原論的な研究もあってもいいのでは。

吉武（宮崎大学）：今、ソーシャルキャピタルを「まちづくり」の観点で見ている。地域のネットワーク形成に寄与すれば良いと考えている。自然のなかで人間の暮らし方に応じたインフラのあり方は？など研究したい。

田中：本委員会HPなどを紹介。